

Associate Professor Duangruedee Lasuka, .RN., DN.  
Faculty of Nursing, Chiang Mai University, Thailand

平成 24 年度大学院フォーラムにあたり、海外招聘教員による講義を開催する運びとなり、我が校が以前より交流しているチェンマイ大学から、看護教員であるラスカ先生をお迎えすることとなった。ラスカ先生には 2012 年に ICHS の前身である、IAH コースによって上梓された「アジアにおける国際保健」に「International Health Sciences in Thailand」のタイトルで寄稿してくださっているご縁もあった。

ラスカ先生はチェンマイ大学の老人看護学の准教授であり、地域高齢者のケアや、アジアをめぐる高齢化に関する課題の専門家である。

10 月 2 日に神戸入りされ、10 月 3 日には日本の医療の現状を知り、看護師間交流を図るため、神戸大学医学部附属病院見学を行った。病院での受け入れには、高橋副看護部長、ICU 藤巻看護師、外来看護相談室塩川師長らがあたってくださった。

看護部において、神戸大学病院の看護体制の説明を受け、その後、9 階南病棟（総合内科、免疫内科、神経内科、放射線科）を見学し、高齢者の多い病棟の特性を踏まえながらの看護実践を見学した。



ICU では最新の医療施設の中、集中的なケアを受ける患者の看護を見学した。外来看護相談室では、退院から在宅ケアに向けての具体的ケアの説明を受け、在宅高齢者の看護を中心に研究しているラスカ氏は興味深く質問していた。英語の堪能な藤巻看護師の誘導のもと、専門的用語も交えながら、有意義な病院見学となった。

10 月 4 日には今回の招聘の目的である、保健学研究科の 2012 ICHS Autumn Educational Program において International health science in Thailand のタイトルで講演を行っていただいた。12 名の大学院生が参加し、タイにおける看護カリキュラムの紹介

や、ヘルスケアプロバイダーの取り組む課題についてなどの講演を興味深く聴講した。(スライド参照)



10月6日には、64名の大学院生が参加した保健学研究科大学院フォーラムにおいて *Aging in Asia* のタイトルで講演を行っていただいた。その中では、高齢化するアジアの中で、取り組むべき6つの課題や、現在取り組んでいるプロジェクトについて紹介があり、将来のアジアにおける医療者への示唆も示されていた。(スライド参照)



これら、講演・交流の中で、タイ国と我が国との共通点や相違についてディスカッションする機会も得て、高齢化を迎えて久しい我が国から視野を広げ、アジア全体の高齢化についても認識し、改めて今後の国際保健の課題について考えることのできる良い機会となった。

今後は我が校の学生がタイ国を訪れ、アジアにおける国際保健への関心を高め、国際的な視座を持って学ぶ機会を持つ予定である。

ICHSを今後ますます充実させ、招聘・渡航する学生、教員が様々な形で連携し、交流を深めることができるようにとの思いを強くしたホスト役であった。